

余野川ダムの中止を「流域委員会」へ要請

(要請書の要約)

2001年12月3日

国土交通省近畿地方整備局
淀川水系流域委員会様

安威川ダム反対市民の会
大阪自然環境保全協会
関西のダムと水道を考える会
大阪昆虫同好会
紀伊丹生川ダム建設を考える会
槇尾川ダムの見直しを求める連絡会
箕面北部の自然と開発を考える府民の会余野川ダム対策部会

<余野川ダム事業を中止とするよう求める意見>

国土交通省が大阪府箕面市下止々呂美で進めておられる標記事業は、治水面、利水面、また自然環境負荷面からも不要であり、「淀川水系河川整備計画」策定に際して中止とされるよう意見を提出します。以下に、理由を記します。

●治水面

- ① 余野川は、猪名川合流点まで掘り込み河川であり、
- ② 現況に整備されてきた過程で破堤や長時間浸水など深刻な水害が生じていない。
- ③ 猪名川は合流点直下流部の河積拡大工事が完工し、さらに下流は現況に形整されて以来、破堤や溢水に近い水位が記録されたことはなく、藻川分派点までの河川敷は広く、必要に応じて低水路の拡幅は容易に図れるため、一庫ダムと併せて河道内で洪水流を処理することが容易。
- ④ 余野川の基本高水1,320立米/秒は余野川ダムの直接・間接流域面積27.8km²に対して大き過ぎる。クリーガーの図表(200年確率)によると、近畿地域の27.8km²に対する比流量は約25立米/秒/km²、したがって高水流量は約700立米/秒。100年確率では高水流量は580立米/秒となり、明らかに1,320立米/秒は過大で、比流量を逆算すると47.5立米/秒/km²の極めて過大な値となる。

●利水面

- ① 水道水として1日最大9万立米を取得する予定の阪神水道企業団(尼崎、神戸、芦屋、西宮の4市水道事業者)は水需要が伸びるとは考えられず、新たな水源確保の必要がない。
- ② 箕面市は、水と緑の健康都市と止々呂美集落への給水について、2010年で1人1日平均使用量380リットル、最大給水量475リットル、1日最大1万立米としているが、その根拠は475リットル×給水人口20,400人=9,700立米で、人口が過大。
- ③ 健康都市は人口レベルで1/3以下の5,000人まで計画が縮減され、給水計画はさらに過大となる。

④ また大阪府企業局が、健康都市の水源を見直し、府営水道導入の検討を表明。ダム利水では水道料金が2倍以上になる箕面市はこれを受けて府営水道への変更の検討に入るため、ダム利水の必要性はさらに低くなる。

●自然環境面

①ダム計画地一帯は、国の環境系本計画の里地自然地域に相当する豊かな生態系を擁した里山で次世代に引き継がねばならない極めて貴重な財産。

②健康都市を含めた両事業計画地域では、種の保存法の希少野生動物であるオオタカが繁殖、ニホンジカなどの大型動物をはじめ、ダルマガエルなどの絶滅危惧種も多く生息。

③止々呂美は昆虫の宝庫で、環境省レッドデータブックの希少種・オオムラサキは大阪府では止々呂美が数少ない重要な棲息場所。また、大阪府レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類の蝶14種のうち4種、準絶滅危惧種15種のうち13種が止々呂美で確認されている。

④こうした重要な生態系が維持されているにもかかわらず、同ダム事業では「閣議アセス」に準じた調査だけでアセスメントは行われておらず、環境影響評価法相当の環境影響評価を実施すべきである。

「都市と自然」311号 2002年2月号 特集記事から転載